ミニリンメルトによる水中毒を防いだ一例

いちご薬局

寺﨑　錠治

対象患者は10歳2か月小学５年生、男児、26.7kg。

夜尿症にてミニリンメルトOD錠120µg　1錠　分1就寝前を３月から服用中。

以前から、毎日ではないが朝起きたときにパンツが濡れていることがあった。４月から５年生になって、５月末に宿泊訓練があるのでそれまでには夜尿症を治したいとのことで３月に来局。しばらくミニリンメルトを服用して、４月に再来局。夜尿症の改善はあまり見られず、朝起きた時に頭が痛いことがあったとの情報を患児母親より得た。

３月の初回来局時には夕食後から翌朝までの水分をコップ一杯程度にするように説明していた。サッカーを習っており帰宅時間が７時過ぎ、夕食は８時、就寝時間は９時の生活スタイル。初回来局時には習い事の情報までは確認していなかった。ミニリンメルトの警告に低ナトリウム血症による痙攣が報告されており、投与の２～３時間前の飲水をコップ一杯程度にすることが必要だが、夕食時にも水分が含まれていることから不可能であった。朝起きた時の頭痛が水中毒の疑いもあるため、薬学的介入が必要であると考えた。

習い事がない日は夕食後から翌朝までの水分をコップ一杯程度にすることは可能だとの母親の話ではあったが、毎日は難しいこと、たまに頭痛があることを医師に情報提供を行った。

また、今回の患児は夜尿症診療ガイドラインの病型分類によると多尿型、膀胱型の混合型であった。混合型にはデスモプレシン療法、抗コリン療法の併用療法が推奨されるため、ミニリンメルトからベシケアOD錠５㎎へ提案をした。変更したことで服用３日目からおねしょをしなくなった。また、頭痛については言わなくなり、夜尿症が改善されたことで本人の服薬アドヒアランスも向上した。

今回、最初の投薬時に生活スタイルまで聞き取れていたら、初めからベシケアを服用して夜尿症が改善されていたかもしれない。患児保護者に副作用や初期症状を伝える際に生活スタイルまで確認することで副作用の防止につながる。夕食後以降の水分は控えていたが、夕食時の水分までは確認していなかった薬局での指導不足も考えられる。今後は生活スタイルは患児個々によって違うため、投薬時に確認し患児に合わせた指導が必要である。

キーワード：小児薬物療法認定薬剤師、水中毒、夜尿症